

## 書籍案内

方正友好交流の会が編集した本と会員の関係著書をご紹介します。

\* 『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」—ハルビン市方正県物語—』

方正友好交流の会 編著

定価 1500 円

この本には、日本人公墓建立までの経緯などを王鳳山と奥村正雄が、中国養父母公墓を自力で建立した遠藤勇さんの半生を大副敬二郎が、方正県住民の家に住み込み、全力で稲作指導に邁進し「日中友好水稻王」といわれた藤原長作さんの一生と、敗戦後八路軍に入り帰国後、日中友好運動や麻山事件の犠牲者の公墓建立で活躍された金丸千尋さんの半生を大類善啓が執筆、また「方正友好交流の会」を成立以前から支えた人々の座談会を牧野史敬が司会進行した記録などが収録されている。(事務局に残部あり)

\* 『天を恨み 地を呪いました —中国方正の日本人公墓を守った人々—』

奥村正雄 編著 定価 700 円

この本に書かれた文章は、上記の『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」—ハルビン市方正県物語』にも収録されているが、日本人公墓建立の契機を作った残留婦人・松田ちよさんの息子・崔鳳義さんの貴重な体験記も入っている。(事務局で取り扱っている)

\* 『風雪に耐えて咲く寒梅のように 二つの祖国の狭間に生きて』

可児力一郎 著

定価 1700 円

著者は、旧満州へ入植してから 17 年ほどの中国での残留生活を経て帰国するまでの記憶を綴ろうと、慣れない日本語と苦闘しながら、2003 年本書を書き上げた。この本については P 53 に藤井正義が紹介しているのでお読みいただきたい。また可児さんにも寄稿(P 26)していただいている。本書は事務局でも扱っているので、払込取扱票を利用されたい。著者宛てに直接申し込んでいただいても結構である。

〒399-5303 長野県木曾郡木曾町田立1223 可児力一郎 (かに りきいちろう)

TEL: 0573-75-4755 FAX: 0573-75-4557

\* 『父の足跡——満州の回想——』

坂本弘子 著

定価: 1000 円 (税別)

本書についても可児さんの著作同様、藤井が P 53 に紹介している。著者(旧姓で出版)はお兄さんと弟さんをハルピンで亡くされている。自分が今日生かされているのは兄弟の命と引き換えではなかったか、という思いが年々強くなっていた。なんとかお墓参りをと

いう思いがあったところ、埋葬された場所は今「公園になっている」と、かつてハルピンにいた日本人から聞かされた。一方、ハルピン出身の中国人の知人に事情を話したところ、彼はインターネットで方正日本人公墓と当会を知り、著者にその存在を教えた。そして著者からの電話だった。方正公墓に「なんだか兄弟たちが眠っている」ような気がするとおっしゃるのだ。(大類)

この本を希望される方は、直接著者に申し込んでいただきたい。

〒343-0835 越谷市蒲生西町2-8-1 山田弘子 電話：048-987-5509

\* 『二つの祖国 ある中国残留孤児の証言』 北澤博史 著  
定価 1500 円 (税別)  
製作・発行 夢工房

著者の北澤さんは 1935 年長野県赤穂村で生まれ、1940 年両親に連れられ満洲へ。敗戦とともに孤児となる。この本は北澤さんの自伝的な作品で、方正県での当時の様子や難民となった苛酷な体験を絵と文章で描写されている。(事務局で取り扱っている)

\* 『赤い夕陽の満州にて 「昭和」 への旅』 高橋健男 著  
定価 3400 円 (税別)

著者は 1946 年生まれ。本書は「昭和は終わっていない」という問題意識の下、満蒙開拓という国策とそれに加わった人たちの軌跡を追求した大著。ご希望の方は直接、刊行先の新風社販売部に。電話 03-3746-4648 FAX 03-5414-3494。

## 《報告》 ありがとうございます

前号の会報7号発行後、カンパをお寄せいただいた方、また新たに会員になられた方々のお名前を記して感謝の意をお伝えします。ありがとうございました。(敬称略、受付けた順に記載しました。09年4月27日現在)

羽田澄子 小柴玲子 斉藤兵一 出口三平 吉川春子 小島晋治 米山惇 岩噌弘三 森川忍 延浄寺・網代正孝 原磯子 阿部恵一 篠田欽次 藤原作弥 西沢昭裕 穂苺甲子男 山内良子 小関光二 小関征子 東山健吾 久保祐雄 玉山昌顕 野澤淑子 岩佐一福 久かずえ 石原健一 藤原知秋 芹澤昇雄 高橋健男 川村範行 伊原忠 伊原泰子 渡辺保雄 武吉次朗 石田和久 阿久津国秀 師岡武男 杉田春恵 北澤博史 永原今朝男 北澤吉三 望月迪洋 近畿地区中国帰国者支援交流会・小栗勝則 辻康子 黒岩満喜 魚崎宏 柴崎葦律子 新谷陽子 白西紳一郎 山田寿子 山田陽子 瀧亀久男 金丸千尋 萩原武太郎 稲川清一 名取敬和 谷口誠 森田恭子 二つの観音様を考える会 塩野泰彦 登丸誠 生田和美 小原昌一郎 宮腰直子 西澤潤一 佐藤嘉恭 河内宏光 奥村勉 鶴沢弘 伊藤泰夫 伊佐昭紀 岡庭成巳 田中實 小林英子 奥村恒雄 林郁 塩谷建木村美智子 渡辺洋一 湊谷節子 小畑正子 可児力一郎 土川克宏 山川禎一 西尾清 加藤稔 伊藤幸枝 吉川雄作 星浩一 飯田成夫 堀江はつ 神田幸子 酒井正文 坂部晶子 高橋増江 竹島泰浩 大頂子東仙道開拓団の証を守る会・加藤浩司 山下くに 藤村光子 高木涼子 矢野光雄 山田弘子 風間成孔 渡辺亮介 森清多美恵 吉岡稔

片岡稔恵 福田順子 南哲夫 金子静子 宮下春男 斉藤忠雄 齋藤實 大森猛 山田正  
一 八子充子 深山信雄

<編集後記>

《訂正とお詫び》

前号(7号)に誤りがあった。ひとつは、前号P4に日本政府の草の根無償資金協力の黒竜江省に関する5つの案件のうち、4つが方正県に関するものだと書いたが、正しくは3つだ。ハルピン市双城市のものも方正に入れてしまった。それともう一つ、P27の下段の写真、撫順戦犯管理所に収容されていた愛親覚羅溥儀の写真を溥傑と記してしまった。実は少しばかり溥儀か溥傑かで迷った。その際、時間を惜しまずにちゃんと資料に当たれば良かったのだが、溥傑さんへの思いもあったせいか、風貌からも間違いはないと思ってしまった。読者から指摘していただいた。感謝。

\* \* \* \* \*

先日、大阪から会員の山本義輝さんが訪ねて来られた。山本さんは農業機械の指導で、黒竜江省に3度行かれた方だ。今でも阪南市日中友好協会でご活躍だ。中国の農業機械化の発展のためにと、55年余りの間、農業機械の試験や研究、製品開発、普及に役立ててきた図書や発表論文などを整理して、中国農業大学の図書館に寄贈された。総重量は265Kg(梱包を除く)という膨大なものだ。山本さんは、かつてその大学に3年半、JICAの農業技術者として派遣されていた。その日、大学図書館からの感謝状と掛け軸を中国大使館で受け取られた後、来訪されたのだった。

\* \* \* \* \*

いよいよ6月13日から岩波ホールで『嗚呼 満蒙開拓団』が上映されることになる。マスコミ向けの試写会も5月19日で終わり、徐々にメディアでこの映画の紹介記事が出るのではないかと期待している。方正日本人公墓が更に多くの人々に知られることによって、不毛なナショナリズムが払拭されることに少しでも役立ってほしいと思う。映画によって、日本側に見られる歴史認識の欠如が少しでも補われ、旧満州時代が何だったのかという深い認識が深まることを願っている。つい最近の新聞報道で、「中国、愛国教育強化へ」という記事を見つけた。中国側もいたずらに“愛国主義”などと言わずに、国際主義的な精神が復興することを期待したい。かつて北京放送局の若い記者は、方正日本人公墓の存在を中国の若者にも知ってもらいたいと語ったこと思い出すのだ。(大類)

《表紙写真撮影・佐藤斗久枝(自由工房)》

『星火方正～燎原の火は方正から～』(第8号) 2009年5月16日発行  
発行：方正友好交流の会 編集人：大類善啓 Email：ohrui@jst.or.jp  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6 日本分譲住宅会館 4F  
(社)日中科学技術文化センター内 電話：03-3295-0411 FAX：03-3295-0400  
郵便振替口座番号 00130-5-426643 加入者名 方正友好交流の会  
HPアドレス：<http://www.houmasa.com/>